

I 財政状況

1 決算収支の状況

- (1) 決算収支
- (2) 歳入決算規模
- (3) 歳出決算規模

(1) 決算収支

(単位：百万円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歳入決算額 A	26,383	29,159	29,612	31,136	33,604	34,486	31,457	37,092	34,491	34,537
歳出決算額 B	25,559	27,018	28,608	30,081	32,549	33,492	30,506	36,288	33,758	33,886
形式収支 (A-B) C	824	2,141	1,004	1,055	1,055	994	951	804	733	651
翌年度へ繰り越すべき財源 D	204	1,471	313	395	408	382	205	147	92	85
実質収支 (C-D) E	620	670	691	660	647	612	746	657	641	566
単年度収支 (E-前年度実質収支) F	△81	50	21	△31	△13	△35	134	△89	△16	△75
積立金 G	105	173	313	637	87	112	98	134	86	90
繰上償還額 H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
積立金取崩額 I	0	1	33	2	298	199	26	200	650	620
実質単年度収支 (F+G+H-I) J	24	222	301	604	△224	△122	206	△155	△580	△605

傾向分析

歳入・歳出決算額は、近年、増加傾向にあります。26年度は南山小学校の建設に伴い歳入・歳出決算額は大幅な増となりました。また、毎年、形式収支は6～10億円程度の黒字決算となっていました。20年度は翌年度に繰り越すべき財源として定額給付金などが入ったため大幅な黒字決算となりました。

28年度は平年並みの黒字決算となっています。また、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支も概ね平年並みであり、黒字となっています。

実質収支比率は、概ね3%～5%が望ましいとされていますが、28年度の実質収支比率は3.3%となっており、良好な財政運営を表しています。

【参考：実質収支比率の算式】 ※概ね3%～5%が良好とされる。

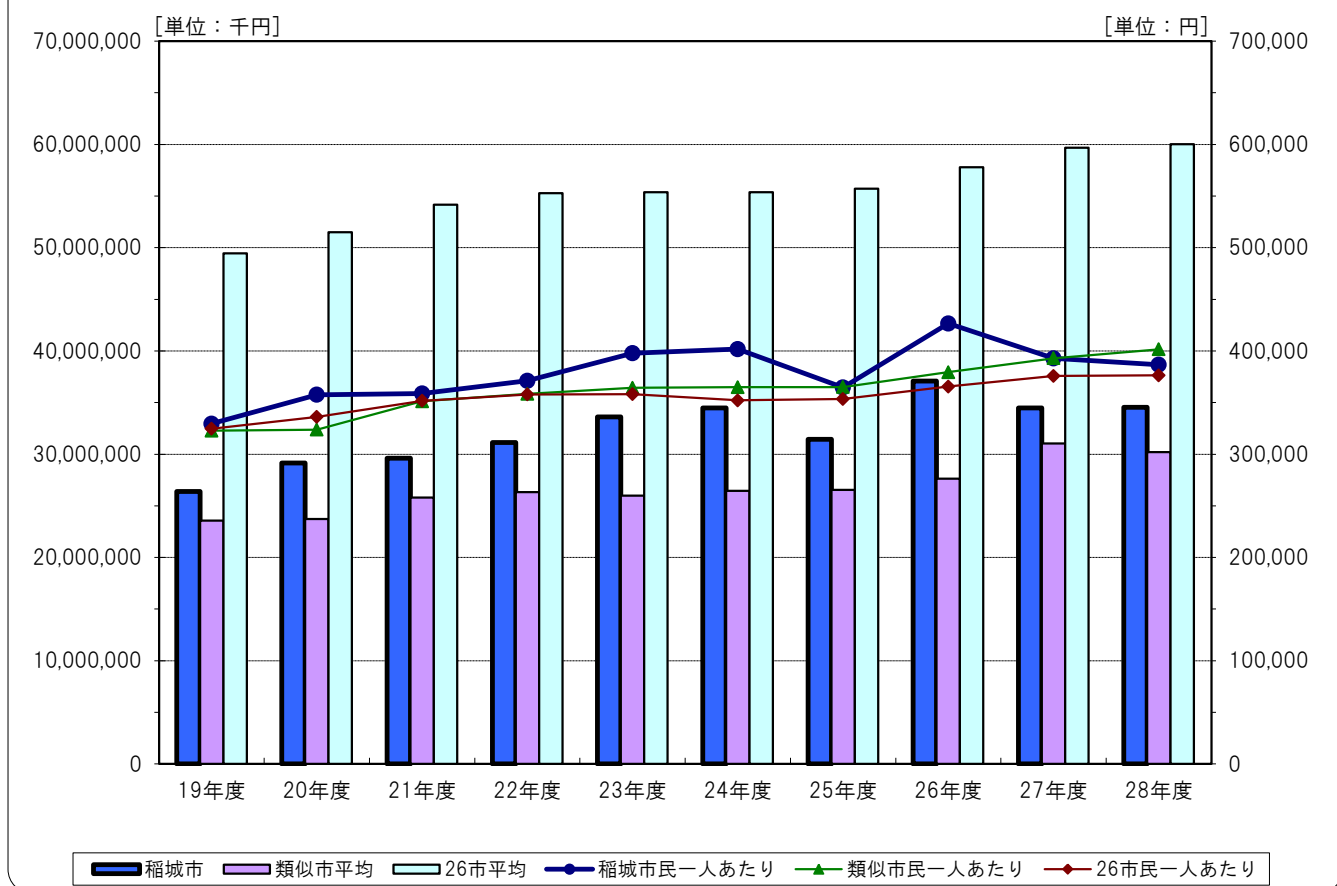
$$\frac{\text{実質収支 (E)}}{\text{標準財政規模} + \text{臨時財政対策債発行可能額}} \times 100 (\%)$$

* 19年度より、臨時財政対策債発行可能額を加えることとなる。

28年度決算26市比較データ 実質収支比率(抜粋)

No.1. 福生市[類似市]	9.6%
No.2. 東大和市[類似市]	9.0%
No.8. 清瀬市[類似市]	6.5%
No.19. 国立市[類似市]	3.6%
No.21. 稲城市	3.3%
No.24. 東久留米市	2.5%
No.24. あきる野市[類似市]	2.5%
No.26. 八王子市	1.8%

(2) 歳入決算規模



(単位：千円、円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
稲城市	26,382,997	29,159,076	29,611,586	31,135,509	33,603,714	34,485,823	31,457,126	37,092,369	34,490,686	34,537,388
稲城市民一人あたり	329,516	357,495	358,741	371,089	397,668	401,741	364,644	426,594	392,707	386,566
類似市平均	23,567,991	23,716,346	25,789,474	26,333,012	25,988,411	26,465,216	26,541,610	27,637,562	31,028,007	30,198,056
類似市民一人あたり	322,774	323,857	351,303	358,419	364,300	364,886	365,019	379,371	392,894	401,677
26市平均	49,443,712	51,494,213	54,162,466	55,288,374	55,383,591	55,385,853	55,713,869	57,805,061	59,688,053	60,025,909
26市民一人あたり	324,545	336,025	351,702	357,775	358,071	352,126	353,362	365,496	375,846	376,317

傾向分析

歳入総額及び市民一人あたり額は、近年、26市平均は増加傾向にあり、稲城市でも、年度ごとの増減はあるものの増加傾向にあります。

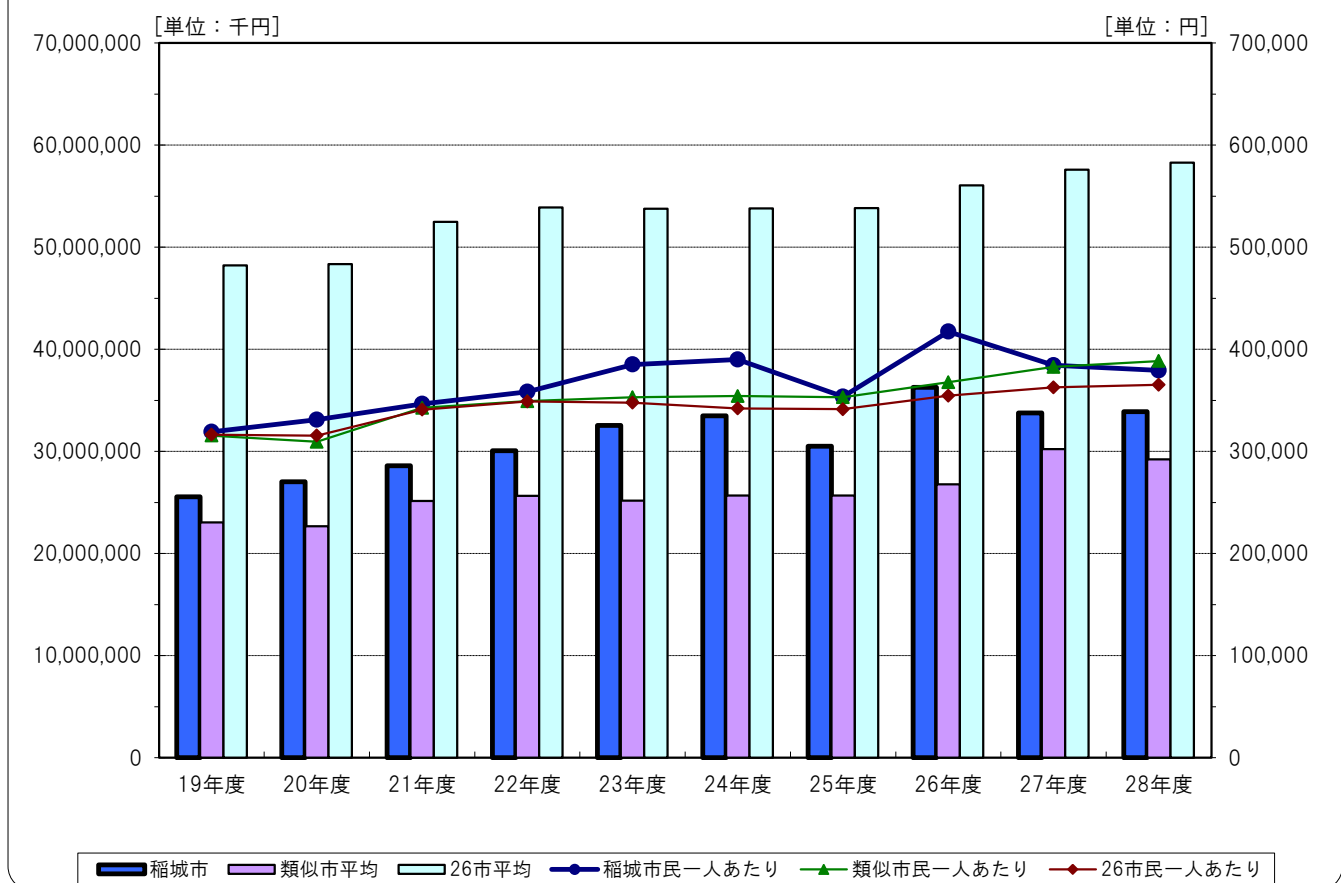
稲城市の歳入総額に年度によるバラつきが見られるのは、土地区画整理事業などの都市基盤整備や学校教育施設の整備の財源となる国庫支出金、都支出金、市債などが、事業の進捗状況に合わせて大幅に増減しているためです。

28年度は、中央公民館ホール大規模改修事業債などの市債が増になったほか、財政調整基金繰入金などの繰入金が減となったことなどにより、前年度比46,702千円（0.1%）の増、市民一人あたり額6,141円（1.6%）の減となっています。

28年度決算26市比較データ 市民一人あたり額（抜粋）

No.1 武蔵野市	490,422円
No.2 福生市〔類似市〕	455,312円
No.6 東大和市〔類似市〕	404,135円
No.7 清瀬市〔類似市〕	400,354円
No.8 国立市〔類似市〕	398,038円
No.13 稲城市	386,566円
No.18 あきる野市〔類似市〕	365,018円
No.25 町田市	336,785円
No.26 小平市	332,563円

(3) 歳出決算規模



(単位：千円、円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
稲城市	25,558,895	27,017,791	28,608,306	30,080,806	32,548,785	33,492,126	30,506,111	36,287,991	33,757,626	33,886,137
稲城市民一人あたり	319,223	331,242	346,587	358,519	385,184	390,165	353,620	417,343	384,361	379,277
類似市平均	23,041,790	22,664,266	25,159,650	25,660,890	25,193,362	25,694,961	25,678,190	26,793,187	30,226,622	29,213,581
類似市民一人あたり	315,567	309,490	342,723	349,270	353,155	354,267	353,144	367,781	382,746	388,582
26市平均	48,215,152	48,353,113	52,498,227	53,910,102	53,785,288	53,794,131	53,825,927	56,068,833	57,609,646	58,281,669
26市民一人あたり	316,480	315,528	340,895	348,856	347,738	342,006	341,388	354,518	362,758	365,382

傾向分析

歳出総額及び市民一人あたり額は、近年、26市平均は増加傾向にあり、稲城市でも、年度ごとの増減はあるものの増加傾向にあります。

稲城市では、土地区画整理事業など、多額の資金が必要となる都市基盤整備を推進しているため、事業の進捗状況に合わせ、年度ごとに大きな増減を繰り返しながら、全体としては増加傾向にあります。

28年度は、年金生活者等支援臨時福祉給付金、私立保育所運営委託料などの扶助費が増になったことなどにより、前年度比128,511千円(0.4%)の増、市民一人あたり額5,084円(1.3%)の減となっています。

28年度決算26市比較データ 市民一人あたり額(抜粋)

No.1 武蔵野市	473,605円
No.2 福生市[類似市]	436,325円
No.6 国立市[類似市]	387,947円
No.7 清瀬市[類似市]	386,358円
No.9 東大和市[類似市]	385,527円
No.11 稲城市	379,277円
No.17 あきる野市[類似市]	360,030円
No.25 町田市	326,020円
No.26 小平市	323,914円